

RUBBER-TOUGHENED STYRENE RESIN COMPOSITION**Publication number:** JP3028257 (A)**Also published as:****Publication date:** 1991-02-06

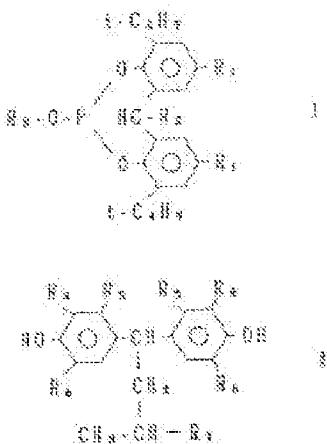
JP2725059 (B2)

Inventor(s): HARUNA TORU; TAKAHASHI MASAYUKI; KONO TOSHINORI +**Applicant(s):** ADEKA ARGUS CHEMICAL CO LTD +**Classification:**

- **international:** C08K5/00; C08K5/13; C08K5/27; C08L51/04; C08L55/00;
C08L55/02; C08K5/00; C08L51/00; C08L55/00; (IPC1-7): C08K5/00; C08L51/04; C08L55/02

- European:**Application number:** JP19890164490 19890627**Priority number(s):** JP19890164490 19890627**Abstract of JP 3028257 (A)**

PURPOSE: To obtain the subject composition excellent in heat resistance and light resistance and improved in processability by incorporating a specified organic cyclic phosphite compound and a specified phenolic compound into a rubber-toughened styrene resin. **CONSTITUTION:** 100 pts.wt. rubber-toughened styrene resin (e.g. high impact polystyrene) is mixed with 0.001-5 pts.wt. organic cyclic phosphite compound of formula I (wherein R1 is 1-9C alkyl; R2 is H or 1-4C alkyl; R3 is 1-30C alkyl) and 0.001-5 pts.wt. phenolic compound of formula II (wherein R4 to R6 are each H, 1-18C alkyl, aryl or cycloalkyl; R7 is H, alkyl, substituted or unsubstituted aryl, or aralkyl) to give a stabilized, rubber-toughened styrene resin composition.

Data supplied from the **espacenet** database — Worldwide

⑫ 公開特許公報 (A)

平3-28257

⑬ Int. Cl. 5

C 08 L 51/04
 C 08 K 5/00
 C 08 L 55/02
 //C 08 K 5/00
 5:13
 5:527)

識別記号

LLA

府内整理番号

7142-4 J

⑭ 公開 平成3年(1991)2月6日

LMC

7142-4 J

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全6頁)

⑮ 発明の名称 ゴム強化スチレン系樹脂組成物

⑯ 特 願 平1-164490

⑯ 出 願 平1(1989)6月27日

⑰ 発明者 春名徹 埼玉県浦和市白幡5丁目2番13号 アデカ・アガス化学株式会社内

⑰ 発明者 高橋雅之 埼玉県浦和市白幡5丁目2番13号 アデカ・アガス化学株式会社内

⑰ 発明者 幸野俊則 埼玉県浦和市白幡5丁目2番13号 アデカ・アガス化学株式会社内

⑯ 出願人 アデカ・アガス化学 株式会社 東京都荒川区東尾久8丁目4番1号

⑰ 代理人 風道典

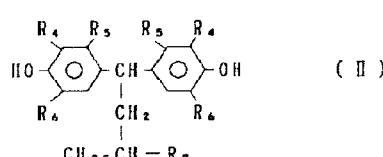
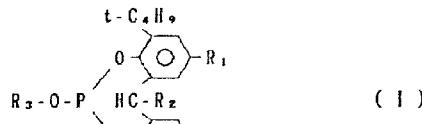
明細書

1. 発明の名称

ゴム強化スチレン系樹脂組成物

2. 特許請求の範囲

ゴム強化スチレン系樹脂100重量部に対し、
 次の一般式(I)で表される有機環状ホスファイト化合物を0.001~5重量部および次の一般式(II)で表されるフェノール系化合物を0.001~5重量部を添加してなる安定化されたゴム強化スチレン系樹脂組成物。

(式中、R₁は炭素原子数1~9のアルキル基を示す)

し、R₂は水素原子または炭素原子数1~4のアルキル基を示し、R₃は炭素原子数1~30のアルキル基を示す。R₄~R₇はそれぞれ独立して水素原子、炭素原子数1~18のアルキル基、アリール基またはシクロアルキル基を示し、R₇は水素原子、アルキル基または置換基を有してもよいアリール基またはアリールアルキル基を示す。)

3. 発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本発明は安定化されたゴム強化スチレン系樹脂組成物に関し、詳しくは、特定の有機環状ホスファイト化合物および特定のフェノール化合物を添加してなる耐熱性、加工性などの改善されたゴム強化スチレン系樹脂組成物に関する。

〔従来の技術及びその問題点〕

ゴム強化スチレン系樹脂は、硬くて脆い樹脂質成分と軟らかくて粘り強いゴム質成分の両成分の優れた性質を備えており、耐衝撃性、剛性、耐熱性、耐薬品性、電機的特性等の性質が良くバランスされており、これらの優れた性質を利用して、

自動車部品、弱電部品、雑貨等広範囲に使用されている。これらの部品を製造する方法は、射出成型、押出成型、真空成型等の溶融成型法であって、ゴム強化スチレン系樹脂は高温状態で大気に曝される。またゴム強化スチレン系樹脂の製造方法によつては、その製造時の乾燥工程、ペレット化工程などにおいても同様の熱履歴を受ける。

このような熱履歴を受けた時の安定性は必ずしも充分でなく、例えば長時間成型機のシリンドー内に高温下で滞留させた場合には、材料が黄色乃至褐色に着色したり、あるいは長時間連続して押出成型した場合には、熱安定性の不足に起因すると推測される異物等が発生するなどの問題点があり、その改良が望まれていた。

ゴム強化スチレン系樹脂の熱、光などによる劣化を防止するために各種の安定剤を添加することは周知のことであり、フェノール系、アミン系、イオウ系、リン系の各種酸化防止剤等が挙げられる。これらの中でアミン系酸化防止剤は製品の製造時に着色するか、または製造から長時間経過す

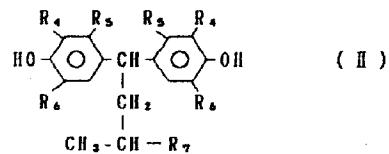
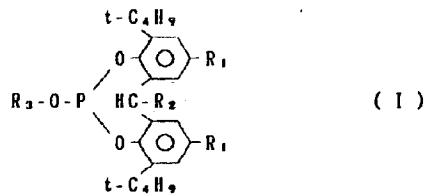
ると着色するため、ゴム強化スチレン系樹脂に使用されることはない。このような理由で各種のフェノール系あるいはリン系の酸化防止剤が用いられており、たとえば β -(3-第三ブチル-4-ヒドロキシ-5または6-メチルフェニル)ブロピオニ酸エステル(特開昭63-122750号公報)あるいは9,10-ジヒドロ-9-オキサ-10-ホスファフェナントレン-10-オキサイド(特開昭63-291939)などが提案され、ある程度の改良は認められるものの、ゴム強化スチレン系樹脂の熱による変性防止効果、特に前述のような熱履歴を受けた時の安定性については未だ充分とは言えず、さらにこれらの安定性の改良が求められていた。

(問題点を解決するための手段)

本発明者等はかかる現状に鑑み鋭意検討を重ねた結果、ゴム強化スチレン系樹脂に特定の有機環状ホスファイト化合物と、特定のフェノール化合物を併用することにより、耐熱性、耐光性に優れるばかりでなく、加工性をも著しく改善されるこ

とを見出し、本発明を完成したものである。

すなわち、本発明はゴム強化スチレン系樹脂100重量部に対して次の一般式(I)で表される有機環状ホスファイト化合物0.001~5重量部および次の一般式(II)で表される特定のフェノール化合物0.001~5重量部を添加してなる安定化されたゴム強化スチレン系樹脂組成物を提供するものである。



(式中、 R_1 は炭素原子数1~9のアルキル基を示し、 R_2 は水素原子または炭素原子数1~4のアルキル基を示し、 R_3 は炭素原子数1~30のアルキ

ル基を示す。 R_4 ~ R_7 はそれぞれ独立して水素原子、炭素原子数1~18のアルキル基、アリール基またはシクロアルキル基を示し、 R_5 は水素原子、アルキル基または置換基を有してもよいアリール基またはアリールアルキル基を示す。)

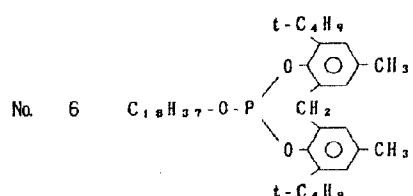
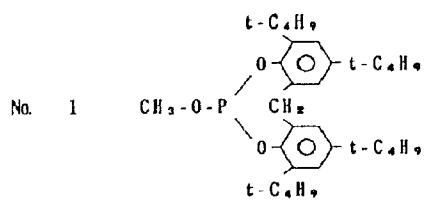
上記一般式において、 R_1 で表される炭素原子数1~9のアルキル基としては、メチル、エチル、プロピル、イソプロピル、ブチル、第二ブチル、第三ブチル、イソブチル、アミル、第三アミル、ヘキシル、ヘプチル、オクチル、イソオクチル、2-エチルヘキシル、第三オクチル、ノニル、第三ノニル等があげられ、 R_2 で表される炭素原子数1~4のアルキル基としては、メチル、エチル、プロピル、イソプロピル、ブチル、第二ブチル、第三ブチル、イソブチル等があげられ、 R_3 で表される炭素原子数1~30のアルキル基としては、メチル、エチル、プロピル、イソプロピル、ブチル、第二ブチル、第三ブチル、イソブチル、アミル、第三アミル、ヘキシル、ヘプチル、オクチル、イソオクチル、2-エチルヘキシル、第三オクチ

ル、ノニル、第三ノニル、デシル、イソデシル、ドデシル、テトラデシル、ヘキサデシル、オクタデシル、エイコシル、ドコシル、テトラコシル、トリアコンチル等があげられる。

また一般式(II)におけるR₄～R₆で表される炭素原子数1～18のアルキル基としては、前記のR₁のアルキル基のほかに、デシル、イソデシル、ウニデシル、ドデシル、トリデシル、テトラデシル、ヘキサデシル、オクタデシル等があげられる。

次に、本発明で用いられる上記一般式(I)で表される有機環状ホスファイト化合物の代表例としては、次の表-1に示す化合物があげられる。

表-1

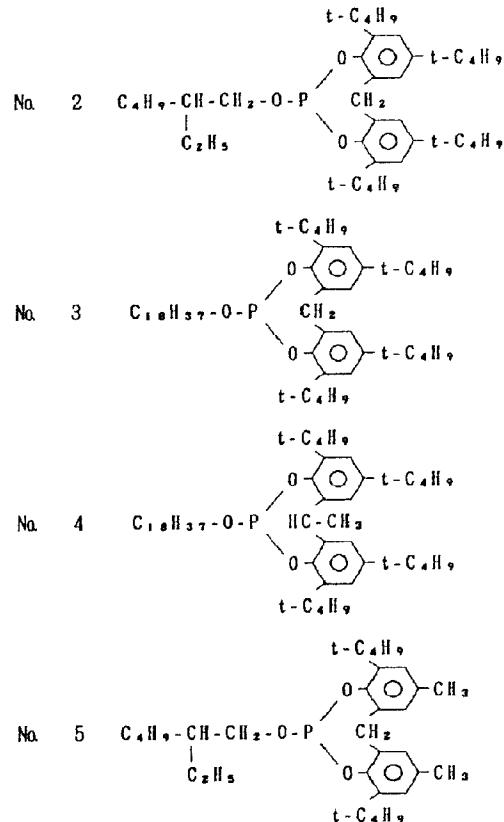


本発明で用いられる上記一般式(I)で表される有機環状ホスファイト化合物の添加量はゴム強化スチレン系樹脂100重量部に対し、0.001～5重量部である。

また、上記一般式(II)で表されるフェノール化合物の添加量はゴム強化スチレン系樹脂100重量部に対し、0.001～5重量部である。

本発明の前記一般式(I)で表される有機環状ホスファイト化合物および一般式(II)で表されるフェノール化合物をゴム強化スチレン系樹脂に添加する方法は特に制限を受けず、一般に用いられる方法をそのまま適用することができる。

例えば、樹脂粉末あるいはペレットと、添加剤粉末をドライブレンドする方法、樹脂粉末あるいはペレットに添加剤の溶液あるいは溶融液をスプ



レーする方法、樹脂ラテックスに添加剤の分散液を混合し、その後塩析する方法等を用いることができる。

本発明におけるゴム強化スチレン系樹脂とは、ジエン系、オレフィン系、ビニル系のゴム質成分によって強化されたスチレン系樹脂をいい、ジエンゴムとしてはポリブタジエン、ブタジエン-スチレン共重合体、ブタジエン-アクリロニトリル共重合体、ポリイソブレン等が挙げられ、オレフィン系ゴムとしてはポリイソブチレン、イソブチレン-イソブレン共重合体、エチレン-プロピレン共重合体、エチレン-プロピレン-ジエン三元共重合体(EPM)等が挙げられる。

ゴム強化スチレン系樹脂は、これらのゴム質成分の存在下で樹脂成分となる単量体をグラフト重合させるか、あるいはグラフト重合体に樹脂質重合体を混合すること等によって製造される。

樹脂成分となる単量体としてはスチレンが単独で、またはアクリロニトリル、メタクリロニトリル等のビニルシアン化合物、もしくはメチルメタ

クリレート、メチルアクリレート等の(メタ)アクリル酸エステル化合物の1種または2種以上と組み合わせて用いられる。また、樹脂質重合体としては、ポリスチレン、スチレンーアクリロニトリル共重合体、スチレンーメチルメタクリレート共重合体等が挙げられる。

ゴム強化スチレン系樹脂の具体例としては、ABS樹脂、HIPS樹脂、MBS樹脂、EPDM存在下にスチレン、アクリロニトリルをグラフト重合させて得られるAES樹脂、アクリルゴム存在下でスチレン、アクリロニトリルをグラフト重合させて得られるAAS樹脂等があげられ、とくにABS樹脂などの樹脂に効果があるが、本発明はこれらに限定されるものではない。

本発明の組成物に更に硫黄系の抗酸化剤を加えてその酸化安定性の改善をはかることができる。この硫黄系抗酸化剤としては例えば、チオジプロピオニ酸のジラウリル、ジミリスチル、ジステアリルエステル等のジアルキルチオジプロピオニート類及びベンタエリスリトールテトラ(β-ドデ

シルメルカブトプロピオネート)等のポリオールのβ-アルキルメルカブトプロピオニ酸エステル類があげられる。

本発明の組成物に、紫外線吸収剤、ヒンダードアミン化合物等の光安定剤を添加することによってその耐光性を一層改善することができる。

この光安定剤としては例えば、2,4-ジヒドロキシベンゾフェノン、2-ヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノン、2-ヒドロキシ-4-オクトキシベンゾフェノン、5,5'-メチレンビス(2-ヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノン)等の2-ヒドロキシベンゾフェノン類; 2-(2'-ヒドロキシ-5'-メチルフェニル)ベンゾトリアゾール、2-(2'-ヒドロキシ-5'-メチルフェニル)ベンゾトリアゾール、2-(2'-ヒドロキシ-3',5'-ジ第三ブチルフェニル)ベンゾトリアゾール、2-(2'-ヒドロキシ-3',5'-ジ第三ブチルフェニル)-5-クロロベンゾトリアゾール、2-(2'-ヒドロキシ-3'-第三ブチル-5'-メチル

フェニル)-5-クロロベンゾトリアゾール、2-(2'-ヒドロキシ-3',5'-ジクミルフェニル)ベンゾトリアゾール、2,2'-メチレンビス(4-第三オクチル-6-ベンゾトリアゾリル)フェノール等の2-(2'-ヒドロキシフェニル)ベンゾトリアゾール類; フェニルサリシレート、レゾルシノールモノベンゾエート、2,4-ジ第三ブチルフェニル-3',5'-ジ第三ブチル-4-ヒドロキシベンゾエート、ヘキサデシル-3,5-ジ第三ブチル-4-ヒドロキシベンゾエート等のベンゾエート類; 2-エチル-2'-エトキシオキザニリド、2-エトキシ-4-ドデシルオキザニリド等の置換オキザニリド類; エチル- α -シアノ- β , β -ジフェニルアクリレート、メチル-2-シアノ-3-メチル-3-(p-メトキシフェニル)アクリレート等のシアノアクリレート類; 2,2,6,6-テトラメチル-4-ビペリジルステアレート、1,2,2,6,6-ベンタメチル-4-ビペリジルステアレート、2,2,6,6-テトラメチル-4-ビペ

リジルベンゾエート、ビス(2,2,6,6-テトラメチル-4-ビペリジル)セバケート、ビス(1,2,2,6,6-ベンタメチル-4-ビペリジル)セバケート、テトラキス(2,2,6,6-テトラメチル-4-ビペリジル)ブタンテトラカルボキシレート、テトラキス(1,2,2,6,6-ベンタメチル-4-ビペリジル)-1,2,3,4-ブタンテトラカルボキシレート、ビス(1,2,2,6,6-ベンタメチル-4-ビペリジル)-1,2,3,4-ブタンテトラカルボキシレート、ビス(1,2,2,6,6-ベンタメチル-4-ビペリジル)-2-ブチル-2-(3,5-ジ第三ブチル-4-ヒドロキシベンジル)マロネート、1-(2-ヒドロキシエチル)-2,2,6,6-テトラメチル-4-ビペリジノール/コハク酸ジエチル重縮合物、1,6-ビス(2,2,6,6-テトラメチル-4-ビペリジルアミノ)ヘキサン/ジプロモエタン重縮合物、1,6-ビス(2,2,6,6-テトラメチル-4-ビペリジルアミノ)ヘキ

サン／2, 4-ジクロロ-6-第三オクチルアミノ-s-トリアジン重縮合物、1, 6-ビス(2, 6, 6-テトラメチル-4-ピペリジルアミノ)ヘキサン／2, 4-ジクロロ-6-モルホリノ-s-トリアジン重縮合物等のヒンダードアミン化合物があげられる。

その他必要に応じて、本発明の組成物には重金属不活性化剤、造核剤、金属石けん、顔料、充填剤、有機錫化合物、可塑剤、エポキシ化合物、発泡剤、帶電防止剤、難燃剤、滑剤、加工助剤等を包含させることができる。

〔実施例〕

次に本発明を実施例によって具体的に説明する。しかしながら、本発明はこれらの実施例によって制限を受けるものではない。

実施例 1

(配合)

未安定化H I - P S樹脂		100重量部			
エチレンビス(ステアリルアミド)		0.4			
有機ホスファイト(表-2)		0.15			

表-2

No.	有機ホスファイト化合物	未老化		2週間		色差(△E)
		1週間	2週間	未老化	2週間	
1-1	なし	6.8	5.8	5.2	12.3	15.6
1-2	ジノニルホスファイト	7.4	6.3	5.5	11.9	13.0
1-3	トリス(2-4-ジ第三ブチルフューリル)ホスファイト	7.2	6.2	5.3	11.8	12.9
実施例1	No.1化合物(表-1)	7.3	6.8	6.5	11.8	12.0
1-2	No.2化合物(表-1)	7.4	6.5	6.4	11.8	12.2
1-3	No.3化合物(表-1)	7.4	6.7	6.4	11.7	12.0
1-4	No.4化合物(表-1)	7.2	6.7	6.3	11.8	12.1
1-5	No.5化合物(表-1)	7.3	6.6	6.5	11.9	12.2
1-6	No.6化合物(表-1)	7.4	6.8	6.4	11.8	12.0

4, 4'-ブチリデンビス(6-第三ブチル-m-クレゾール) 0.15

上記配合物をドライブレンドした後、80°Cで6時間乾燥した。次いで、シリンダー温度220°C、回転数200 rpmの二軸押出し機(L/D=3.0、ベントアップ40 mmHg)を用いてペレットを作成した。ペレットを再び80°Cで6時間乾燥した。このペレットを用いて射出成型機(1オンス、シリンダー温度180°C及び190°C、ノズル温度200°C、金型6.0×3.6×2mm、金型温度60°C、射出15秒、冷却30秒サイクル)で厚さ2mmの試験片を作成した。この試験片をASTM D-256に準じ、110°C、1週間および2週間熱老化後のアイソット衝撃値、黄色度および色差(△E)を測定した。

得られた結果を次の表-2に示す。

実施例 2

(配合)

未安定化A B S樹脂		100重量部
ステアリン酸カルシウム	0.3	
有機ホスファイト(表-2)	0.15	

1, 1, 3-トリス(2-メチル-4-ヒドロキシ-5-第三ブチルフェニル)ブタン

0.2

上記の配合物を実施例1と同様の操作で試験片を作成した。この試験片を110°Cのオーブンに入れ、熱老化5日および10日後の黄色度および色差(△E)を測定した。

その結果を表-3に示す。

表 - 3

No.	有機ホスファイト化合物	黄色度			色差 (ΔE)
		未老化	5日後	15日後	
比較例 2-1	なし	55.8	10.8	22.5	
2-2	ジノニルフェニル・ビスノニルフェニルホスファイト	48.3	8.6	17.8	
2-3	トリス(2-4-ジ第三ブチルフェニル)ホスファイト	49.3	8.9	18.2	
実施例 2-1	No.1化合物(表-1)	47.0	5.1	13.3	
2-2	No.2化合物(表-1)	47.2	4.2	13.2	
2-3	No.3化合物(表-1)	47.5	4.4	13.8	
2-4	No.4化合物(表-1)	48.0	4.9	13.0	
2-5	No.5化合物(表-1)	47.8	4.6	14.1	
2-6	No.6化合物(表-1)	48.1	5.0	13.5	